

| | | | |
|---|---------------|------|----|
| 講義名 | オ)流通経営史(経営学科) | | |
| 担当教員 | 都築 晶 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 水曜日 3時限 | 授業形態 | 講義 |
| 履修開始年次 | 3年生 | 単位数 | 2 |
| 備考 | | | |
| 主題と概要 | | | |
| この授業では、およそ江戸時代から現代までの日本の経済と流通の経営的發展過程について、その大きな流れを押さえながら、各時代の特徴と変化のあり方について考える。その際には、以下の点に留意する。すなわち、日本は世界有数の豊かな社会を実現したこと、それは江戸時代の発展を基礎にしていたこと、明治時代以降の有名・無名の多くの人々と組織の地道な活動が貢献したこと、華々しい発展の背後では多くの矛盾や問題が生じていたことである。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| この授業では、履修した学生が、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」となってもらえるよう授業を構成していきたい。 特に ・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる情報分析力 ・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた通筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる構想力 を身につけてもらいたい。 歴史的な事実を多数紹介するので、「知識」は十分に得られると考えられる。しかし、身の回りに興味を持ち、学んだことがいかに社会に出た後も必ず役に立ち学生皆さんの助けになると考えられる。 | | | |
| 提出課題 | | | |
| 期末試験・期末レポートで全て評価するつもりであるが、中間レポート提出を課す場合は授業内で内容を指定する。 | | | |
| 課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック | | | |
| 課題を課した場合、課題締め切り後に全体的な出来について講評を行う予定である。 | | | |
| 評価の基準 | | | |
| 試験もしくは期末のレポートで100%評価する。 中間レポートが課された場合、試験もしくは期末レポートが80%、途中提出された小レポート20%で評価する予定である。 | | | |
| 履修にあたっての注意・助言他 | | | |
| 授業中の私語、飲食厳禁。 | | | |

| | | | | | |
|--|--|------------------|-----------|-------------|---------------|
| 教科書 | | | | | |
| .使用しない。 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| プリント資料及び参考文献 | | | | | |
| 一回目を除き、授業ごとに資料をネットにアップロードする予定。 受講に際して、各自ダウンロード、印刷するように。 教科書は指定しないが、参考文献は適宜授業内で紹介する。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 第1回：はじめに 第2回：江戸時代の産業発展 第3回：江戸時代の流通発展 第4回：『鎖国』から『開国』へ 第5回：明治維新の改革と経済の近代化 第6回：近代産業の創成と発達 第7回：近代における流通業の発達 第8回：大企業と期間の形成 第9回：経営者・中間層・労働者の形成と発展 第10回：都市化の進展と大衆社会化への動き 第11回：構造的不安定の経済と社会 第12回：戦時期・復興期の経済変動 第13回：高度経済成長期の消費革命 第14回：バブル経済の発生とその後遺症 第15回：まとめ | | | | | |
| 一時的に通学困難になった場合は対面授業の中での対応する。 | | | | | |
| 授業形態(アクティブ・ラーニング) | | | | | |
| ア：PBL(課題解決型学習) | イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) | ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク | オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合) | | | | | |
| 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 | | | | | |
| 日々新聞・ニュースなどを見て、今起こっている問題に興味を持つこと(1日1時間程度、経済ニュースや新聞の経済欄を見ること)。 | | | | | |
| 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | | | | | |
| ・知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 歴史として知っているというだけでなく、授業を通じ現在や将来にその知識がいかせる人材になるよう期待している。 | | | | | |
| 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 | | | | | |
| | | | | | |
| 実務経験の有無及び活用 | | | | | |
| | | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 一時的に通学困難になった場合は対面授業の中での対応する。 | | | | | |